

第3回「あと数マイル・プロジェクト」推進検討会議議事概要

- 1 日 時：令和7年1月31日（金）14時00分～15時55分
- 2 会 場：埼玉会館 5階 5D会議室
- 3 出席委員：久保田尚、金山洋一、伊藤香織、生田美樹（順不同、敬称略）
- 4 配布資料：次第、委員名簿、資料1、資料2
- 5 内 容

（1）開会

（2）挨拶

（3）会議の公開

- ・率直な意見交換を行うため、また、発言によっては特定の関係者の利害に影響がある内容を含むと考えられるとの意見を踏まえ、意見交換は非公開の扱いとすることとしたこれまでの会議と同様の取扱いとすることを決定した。

（4）議題（委員からの主な意見）

ア 日暮里・舎人ライナー、多摩都市モノレール共通の意見

- ・居住誘導区域については、それぞれの自治体が居住誘導をどう考えているのか、公共交通も含めて詳細を確認していくべき。
- ・都市と交通の議論をするためには、バス路線のサービスレベル、例えば1日2本とか、運行本数が著しく少ない路線などについても明確にしておくべき。
- ・ルートの検討・評価に当たっては、例えば概算事業費が高くても鉄道空白地をカバーできたり、並行路線の需要の減少は混雑緩和になるというプラスの捉え方もあるので、総合的に評価すべき。
- ・本来は、まちづくりと交通ネットワークの全体の考え方の中でルートを検討すべきだが、本日議論している2路線は、導入空間からアプローチしてきた面もある。評価に当たっては、延伸した場合に形成される都市を含めて総合的に行うとよい。
- ・鉄道空白地域は、実際は人口があまり張り付いていないところも多いので、市街化していないところは、人口密度も確認したほうがよい。これからの時代に新たな市街地開発を想定するのか、既存の市街地をより便利にするのかでは考え方が違うので、留意した方がよい。
- ・新駅をどこに設置するかは非常に重要である。例えば観光の観点では、目的地と新駅の場所はなるべく近い方がよい。
- ・一般的にB／CのB（便益）は比較的精緻に検討されているが、C（コスト）は精度が低い傾向にあるので、検討に当たっては精査していく必要がある。
- ・まちづくりについて議論するに当たっては、周辺の自治体の状況も含めて俯瞰し、広域的に考えていくとよい。

- ・鉄道空白地域やバス路線の整備状況、人口密度、ハザードなど、まちづくりの検討に当たっての様々な要素があるので、その要素を総合的に考えることが求められる。
- ・延伸元の既設線の状況や、延伸想定地域の道路計画、道路状況、鉄道網も含めた公共交通のあり方を考えた場合、同様の機能を果たせるのであれば、既設線延伸以外の選択肢もあるのではないか。

イ 日暮里・舎人ライナー個別の意見

- ・混雑率を1時間あたりで整理しているが、ピーク時は細かな時間で変動が大きい。今後は詳細な検討も行っていくとよい。
- ・日暮里・舎人ライナーの輸送力はかなり限界に近い。新交通システムの輸送力の上限は技術的に分かるので、ルートを検討する際には考慮すべき。

ウ 多摩都市モノレール個別の意見

- ・多摩湖と狭山湖は、インバウンドやサイクリストの方も訪れており、観光地としてのポテンシャルが非常に高い。
- ・移動需要を満たすだけでなく、車窓風景とか、乗ること自体が観光とか魅力になることも、評価要素として設定してもよいのではないか。
- ・延伸想定地域には公園がいくつかある。P a r k－P F I の手法など、民間に任せることで集客が大幅に増加する事例もたくさんでできている。公園をうまく活用して需要につなげるのも1つの案である。

(6) その他（事務局からの連絡）

(7) 閉会